ISSN: 2189-793X

Amami Station, International Center for Island Studies, Kagoshima University

島嶼研分室だより

とうしょけんぶんしつ

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室

No. 6
2018 年 3 月

シンポジウム開催報告 1 p2
「薩南諸島の外来動物の問題について
ー本の出版とシンポジウム開催を終えてー」 坂巻祥孝

シンポジウム開催報告 2 p3
「島の声、島の歌」 梁川英俊

分室活動報告 p4

学生島体験！ p8
「奄美での出会い、島の魅力」 田中美保

シンポジウム開催報告 1

薩南諸島の外来動物の問題について
－本の出版とシンポジウム開催を終えて－

坂巻祥孝（鹿児島大学農学部）

現在、日本の環境保全では、外来種問題が緊急の課題として重点施策に取り上げられている。その中でも特に離島は分布する生物種が少ないため、外来種の侵入には脆弱な生態系であることが知られている。薩南諸島は、数多くの固有の希少野生動植物が分布する地域だが、同時に多くの外来種が侵入し、固有の生態系が損なわれる脅威にさらされている地域でもある。現在、鹿児島大学の全学プロジェクトとして、薩南諸島地域の生物多様性について重点調査研究がおこなわれており、その一環として特に外来動物問題に焦点を当てたシンポジウムと本の出版を 2017 年 3 月に行った。

2017 年 3 月 4 日「薩南諸島の外来生物」シンポジウムを奄美大島の奄美市(AiAi ひろば)にて行った。シンポジウムについては、奄美市および奄美群島広域事務組合の共催および環境省那覇自然環境事務所の後援をいただいて実施した。当日は数組の親子連れを含む約 90 名の参加者が集い、9 名の専門家の話題提供のもと、研究成果の普及と世界自然遺産を目指す奄美群島の外来種問題の現状と今後について活発な議論が展開された。話題は第 1 部「農作物被害とその対策」として、奄美大島に再侵入したミカンコミバエ、サツマイモ害虫のアリモドキゾウムシ、かんきつ害虫のゴマダラカミキリの問題を取り上げた。第 2 部では、「在来生態系にはびこる外来種」として、外来アリ類、外来昆虫(デイゴヒメコバチ、クマゼミなど)、アフリカマイマイなど生活の中に浸透し、見落としがちな外来種に潜む問題を取り上げた。第 3 部では「外来生物問題：島での取り組み」と題して奄美大島の河川の外来爬虫類・魚類問題に対する地道な調査や啓発活動、および奄美マングースバスターズの活動成果および今後の見通しについて報告があった。

話題提供者が多かったため 4 時間という長時間のシンポジウムでも議論の時間が足りず、個別の問題に対し今後奄美群島がどうしていくべきかという明確な指針は引き出しきれなかった。しかし、モニタリング調査や抑制策を実施しながら住民への情報提供・意識啓発に力を入れ、「外来生物を、入れない・捨てない・広げない」の 3 原則を徹底することの重要性は会場参加者で共有できたと思われる。この際に行ったアンケートでは、もっと話を分かりやすくした子供向けのシンポジウムの企画を提案する声などもあり、主催者としても大変参考になる意見をいただくことができた。

このシンポジウムにあわせて 3 月 20 日に「奄美群島の外来生物　－生態・健康・農林水産業への脅威－」(ISBN 978-4-86124-351-5)（南方新社）を出版した。この本はシンポジウムの話題提供者 9 名を含む 21 人が共同で執筆し、13 章(245 ページ)からなる。奄美群島を含む薩南諸島全体の外来動物問題の現状について最新のデータなどで報告する一冊とした。

シンポジウムの開催および本の出版に参加・協力いただいた皆様に同企画責任者としてこころより感謝いたします。なお、これらの企画および出版は文部科学省への概算要求による「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」予算によって進められた。

「薩南諸島の外来生物」シンポジウム
（2017 年 3 月 4 日）

シンポジウム開催報告2

島の声、島の歌

梁川英俊（ヤナガワヒデトシ）（鹿児島大学法文学部）

2017 年 11 月 18 日、奄美市名瀬の AiAi ひろば 2 階ホールでシンポジウム「島の声、島の歌」を開催した。島嶼研の主催による島唄関連のシンポジウムとしては、2005 年 10 月 29 日に行われた「しまうたの未来」以来 12 年ぶりである。前回のシンポジウムでは島唄のみがテーマであったが、今回は新民謡やポップス、さらにはラジオも含めた奄美の多彩な「うた文化」全般をテーマとして、その現状を見据え、未来を展望しようと試みた。あいにく当日は奄美では珍しいほどの寒波と強風に加え、市長選の真っ只中で、来場者の数は期待したほど多くはなかったが、ホール内では熱気に満ちた報告が展開された。シンポジウムの報告者と演題は別項（p4）で紹介の通りである。

各々の報告は大変に興味深く、2017 年という時代における奄美の「うた文化」の一面を見事に切り取っていた。質の高い報告をして下さった皆さん方に深く御礼申し上げたい。思えば、前回のシンポジウムが行われた 12 年前は、「奄美紅白歌合戦」もなければ、「あまみＦＭ」もなかった。干支が一回りするとこんなにも様相が変わるものかと驚いたが、同時にこれほど豊かな「うた文化」を育む奄美という土地の豊かな潜勢力に思いを馳せることしきりであった。人口減少や紬産業の不振など現実は厳しいが、こと「うた文化」に関しては、奄美はますます元気であるという印象を強くした。いまひとつ改めて驚いたのは、各報告者の「語り」の上手さである。奄美の人は話し上手であるという印象は以前から持っていたが、今回のシンポの報告者の語りの上手さには本当に舌を巻いた。これもまた「うた文化」と並ぶ奄美の立派な文化のひとつであろう。なお、各報告の詳細については、2018 年度に報告書を刊行する予定なので、楽しみにしていただきたい。

「島の声、島の歌」シンポジウム
島唄を披露する楠田氏
（2017 年 11 月 18 日）

「島の声、島の歌」シンポジウム
左から、梁川、小川氏、指宿氏、麓氏、前山氏、楠田氏
（2017 年 11 月 18 日）

奄美分室の活動報告（2017 年 9 月～2018 年 2 月）

＜シンポジウム・講演会等＞

・講演会「刺胞動物って、なに？」
2017 年 10 月 9 日（月）、奄美海洋展示館にて
主催：日本刺胞有櫛動物研究談話会
後援：奄美海洋展示館、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
講演：「刺胞動物ってなんだろう？」柳　研介（千葉県立中央博物館分館海の博物館）
「クラゲってなんだろう？～ふしぎな一生～」戸篠　祥（琉球大学熱帯生物圏研究センター）
「奄美で見られるクラゲたち」築地新光子（かごしま水族館）
「サンゴってなんだろう？」深見裕伸（宮崎大学農学部）

国内の刺胞動物研究関係者が一堂に集まり情報交換を行う日本刺胞有櫛動物研究談話会が当分室で行われる機会に、一般向けの講演会が開催された。研究者によるタメになる話から水族館飼育員による美しい写真まで、会場いっぱいの参加者が貴重な話に耳を傾けた。

・第 70 回日本寄生虫学会南日本支部大会、第 67 回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会市民公開特別講演「ハブーその起源と現状ー」
2017 年 11 月 4 日（土）～5 日（日）、奄美市 AiAi ひろばにて（市民公開特別講演のみ一般公開）
主催：第 70 回日本寄生虫学会南日本支部大会、第 67 回日本衛生動物学会南日本支部大会合同大会
共催：奄美市、奄美群島広域事務組合
後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
講師：服部正策（東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設）

寄生虫学会と衛生動物学会の南日本支部会の合同大会が奄美市名瀬で開かれ、40 名近い研究者が島内外から参加し研究発表をおこなった。4 日の夕方には、東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設の服部正策さんをお招きし、ハブの系統や生態、毒に関する研究を発表していただいた。

特別講演「ハブーその起源と現状ー」
（2017 年 11 月 4 日）

・鹿児島大学重点領域研究（島嶼）シンポジウム「島の声、島の歌ー奄美のうた文化を考える」
2017 年 11 月 19 日（日）、奄美市 AiAi ひろばにて
主催：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
共催：奄美市
後援：奄美群島広域事務組合
講演：「鹿児島の奄美、ブルターニュの奄美」梁川英俊　（鹿児島大学法文学部）
「島唄レコード制作秘話」小川学夫　（島唄研究家・鹿児島純心女子短期大学）
「奄美紅白歌合戦よもやま話」指宿正樹　（株式会社セントラル楽器）
「奄美の「うた文化」とラジオ」麓　憲吾　（NPO 法人ディ）
「浦上の八月踊り復興物語」前山真吾　（唄者）
「島の唄 / 島の songs」楠田莉子（唄者・シンガーソングライター）
パネルディスカッション：講演者 6 名

本シンポジウムに関しては p3 にて詳しく紹介されているため、そちらを参照のこと。

・奄美こども環境調査隊シンポジウム～これから私たちにできること～
2017 年 11 月 23 日（木）、奄美市 AiAi ひろばにて
主催：奄美市、奄美市教育委員会、南海日日新聞社
主管：奄美・沖縄こども環境調査隊交流事業推進協議会
後援：那覇自然環境事務所、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、あまみエフエム ディ！ウェイヴ、アマミテレビ
講演：「慶良間諸島の調査報告」奄美こども環境調査隊
「奄美大島におけるマングース防除事業について」岩本千鶴（環境省奄美野生生物保護センター）
「民間団体のノネコ・ノラネコ問題に対する取組」久野優子（奄美ネコ問題ネットワーク）
「奄美の海洋資源と観光」興　克樹（奄美海洋生物研究会）
「まとめ」　高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

奄美こども環境調査隊への協力として、慶良間諸島で行われた現地調査の事後学習および名瀬で行われた成果発表会へ参加した。発表会における質疑応答では、環境調査を経て子供たち自身から出てきた疑問に専門家が答えるなど、環境教育の成果が垣間見られた。

＜セミナー・観察会等＞

・徳之島上級エコツアーガイド講習会
第 9 回 「徳之島の海洋生物」
2017 年 10 月 16 日（月）、徳之島町生涯学習センターにて
講師：藤井琢磨（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）
第 14 回　「三万年前徳之島に人が住んでいた」
2017 年 10 月 20 日（金）、徳之島町文化会館にて
講師：高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

徳之島上級エコツアーガイド講習実地研修
（2017 年 10 月 16 日）

NPO 法人徳之島虹の会が行っている上級エコツアーガイド講習兼、徳之島観光連盟が開催している島学の講師として招かれ、奄美分室からは上記 2 名が各回を担当した。各講演の翌日には、実地での講習会も開催され、参加者は座学で学んだ内容を現場でも再確認していた。

・平成 29 年度奄美群島民間チャレンジ支援事業「森のエビフライ・ウサギのフン探し」
2017 年 9 月 30 日（土）、徳之島町にて
主催：環境省 徳之島自然保護官事務所、NPO 法人徳之島虹の会
後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター、環境研究総合推進費 4-1707「奄美・琉球における遺産価値の高い森林棲絶滅危惧種に対応する保全技術開発」

徳之島の天城岳の林道で、ケナガネズミの食痕やアマミノクロウサギのフンを探しながら、徳之島の自然について子供たちと学んだ。午後には座学として山コミュニティーセンターにて国立公園や野生動物の生態についての講義が行われた。

森のエビフライ・ウサギのフン探し座学講義
（2017 年 9 月 30 日）

・第 5 回ふるさとリーダー奄美塾&第 7 回奄美の生物多様性観察会
「冬の湯湾岳を歩こうーアマミノクロウサギ生態調査体験－」
2017 年 12 月 23 日（土）、大和村湯湾岳にて
主催：奄美市教育委員会、鹿児島大学「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」プロジェクト、
後援：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
講師：鈴木真理子（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）、平城達哉（奄美市教育委員会文化財課）、鈴木英治（鹿児島大学理工学研究科）

参加者は湯湾岳近くの林道にてアマミノクロウサギのフンやけものみちを探し、野生動物のこん跡調査を体験した。湯湾岳山頂に続く遊歩道ではユワンツチトリモチやトクサランといった希少植物などを観察し、登山を楽しんだ。

・鹿児島大学国際島嶼教育研究センター・同志社女子大学合同セミナー
日時：2018 年 1 月 13 日（土）鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて（一般非公開）
主催：同志社女子大学グローカル研究会・鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
講演：「鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室について」「奄美の海洋生物多様性の解明」
藤井琢磨（鹿児島大学国島嶼教育研究センター）
「希少動物とヒトをめぐる問題ーアマミノクロウサギを例に」
鈴木真理子（鹿児島大学国島嶼教育研究センター）
「奄美・沖縄諸島先史時代の希少性」高宮広土（鹿児島大学国島嶼教育研究センター）

昨年に引き続き、同志社女子大学との合同セミナーが開かれ、島嶼研の 3 人のスタッフが同大の学生約 20 名に対して講義を行った。奄美大島の自然の希少性や先史から現在の人と自然のかかわりについての発表に、多くの質問がなされ、理解を深めていた。

・あまみならでは学舎　第 8 回「奇跡の島々（？）：先史時代の奄美・沖縄諸島」
2018 年 1 月 20 日（土）、鹿児島県立奄美図書館 4 階にて
主催：鹿児島県立奄美図書館
講師：高宮広土（鹿児島大学国際島嶼教育研究センター）

毎年県立奄美図書館で開かれている「あまみならでは学舎」。本年度の最終回を当センターの高宮教授が担当し、奄美と沖縄における先史時代の人々の暮らしについて講義を行った。当日は全回通しての受講生以外にも多くの一般聴講者が集まっていた。

・奄美市まなび・福祉フェスタ「鹿児島大学島嶼研『出張研究室』」
2018 年 2 月 25 日（日）、奄美文化センターにて
主催：奄美市、奄美市教育委員会
後援：南海日日新聞社、奄美新聞社、あまみエフエムディ！ウェイヴ、アマミテレビ、大島教育事務所、県立奄美少年自然の家

野外ひろばにて、蛍光タンパクを生成するサンゴの展示や実態顕微鏡を用いた哺乳類の毛の観察をおこなった。当日は悪天候だったが、多くの人が文化センターに来場し、島嶼研のブースにも足を止め、光るサンゴなどを興味深く観察していた。

・奄美分室で語りましょう（島嶼研勉強会）
第 16 回：2017 年 9 月 29 日（木）17:30～18:30、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「奄美大島におけるシダ植物の分布と成長速度の関係」久保駿太郎（鹿児島県立大島高等学校）

第 17 回：2017 年 11 月 12 日（日）17:30～18:30、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「クラゲは花」並河　洋（国立科学博物館）
第 18 回：2018 年 1 月 18 日（木）17:30～18:30、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室にて
話題：「奄美大島のコウモリたちのくらし」木元侑菜（奄美野生生物保護センター）

不定期開催で、研究者や一般市民が飲み物片手に肩肘張らずに集い語らい、教養を深める場として開催している小規模勉強会、「奄美分室で語りましょう」。2017 年度下半期では、大島高校生物部所属の生徒の発表もあり、地域における調査研究発展や学問意識の高まりへの期待も感じさせられた。

・島嶼研研究会ネット中継会

島嶼研郡元キャンパスで定期開催される研究会のインターネット中継を行っている。2017 年 9 月から 2018 年 2 月の間に計 5 回開催された。

＜奄美分室関連新聞報道記事（平成 29 年 3 月～平成 30 年 2 月）＞

2017 年 3 月 5 日　奄美新聞 p1「外来種問題の住民啓発を　モニタリング、抑制策実施へ」
2017 年 3 月 6 日　南海日日新聞 p1「生態系への影響深刻　外来種テーマにシンポ」
2017 年 3 月 10 日　南海日日新聞 p9「笠利の海岸に死骸漂着　小型クジラ・カズハゴンドウ」
2017 年 3 月 22 日　奄美新聞 p1「サンゴ礁のいきもの観察　パンフ作成、無料配布」
2017 年 3 月 23 日　南海日日新聞 p12「サンゴのいきもの観察　パンフレット配布開始」
2017 年 3 月 24 日　奄美新聞 p8「海洋生物レッドリスト公表　奄美大島周辺海域生息種もリストアップ」
2017 年 3 月 26 日　奄美新聞 p1「クロウサギ幼獣襲われる瞬間撮影　ノネコ問題の深刻さ知って」
2017 年 3 月 26 日　南海日日新聞 p1「クロウサギ幼獣が食害　巣立ち直前、ノネコか」
2017 年 3 月 26 日　南海日日新聞 p8「海洋生物レッドリスト作成　奄美周辺生息 4 生物など指定」
2017 年 4 月 8 日　奄美新聞 p1「琉球列島で最古の植物遺体　旧石器時代に採集生活か」
2017 年 4 月 8 日　南日本新聞 p28「奄美沖縄最古ドングリ　1 万 1000 年前と確認」
2017 年 4 月 9 日　南海日日新聞 p1「1 万 2000 年前に採集生活か　琉球列島最古のシイの実出土」
2017 年 4 月 23 日　南日本新聞 p26「鹿児島離島生物多様性を学ぶ　鹿大で研究発表会」
2017 年 5 月 23 日　奄美新聞 p9「奄美・沖縄の貝塚時代　放送大学公開講座で高宮教授」
2017 年 5 月 24 日　南海日日新聞 p8「社会組織の変遷考察　奄美・沖縄諸島の貝塚時代」
2017 年 6 月 18 日　奄美新聞 p9「国立公園での森林管理報告　奄美で初の日本熱帯生態学会」
2017 年 3 月 5 日　奄美新聞 p1「外来種問題の住民啓発を　モニタリング、抑制策実施へ」
2017 年 6 月 19 日　南海日日新聞 p9「考古学から琉球列島ひも解く　各分野の専門家 4 人が発表」
2017 年 6 月 20 日　奄美新聞 p9「サンゴ資源長井年月かけ有効活用手立て　奄美・沖縄のヒトと自然の歴史」
2017 年 7 月 12 日　奄美新聞 p11「現存の維持が最良　鹿大島嶼研・研究会奄美分室でもネット受講」
2017 年 7 月 24 日　奄美新聞 p9「人と自然の関わり学ぶ　鹿大島嶼研　中高生に講義や実験」
2017 年 8 月 2 日　南海日日新聞 p8「野外活動交えサンゴ学ぶ　島内外から小中学生 21 人」
2017 年 8 月 11 日　南海日日新聞 p10「珍しい生物写真一堂に　大島海峡いきもの展開幕」
2017 年 8 月 12 日　奄美新聞 p8「大島海峡の新種展示　いきもの新発見写真展」
2017 年 8 月 7 日　南日本新聞 p13「奄美を歩く 3　サンゴ礁　生き物の楽園」
2017 年 8 月 24 日　南海日日新聞 p8「貴重な環境が身近に　ゴカイ観察で生態系学ぶ」
2017 年 8 月 28 日　奄美新聞 p1「名前記入で電子図鑑活用　植物観察会＆奄美塾」
2017 年 8 月 28 日　南海日日新聞 p8「親子で海岸の植物観察　デジタル図鑑参考に」
2017 年 8 月 29 日　南海日日新聞 p9「継続的研究が重要　こども環境調査隊　奄美の課題解決へ学習」
2017 年 9 月 14 日　南海日日新聞 p8「クロウサギ守ろう　鈴木さん、生物テーマに講義」
2017 年 9 月 24 日　南海日日新聞 p8「珍種貝の産卵確認　生態系解明に期待」
2017 年 10 月 2 日　奄美新聞 p1「価値あるものと知って　林道観察、専門家講演で自然学ぶ」
2017 年 10 月 10 日　奄美新聞 p9「水温や地形の関係で豊富　クラゲ、サンゴ生態」
2017 年 10 月 25 日　奄美新聞 p9「食器製作カムィヤキ影響か　新里学芸員大学生らに講演」
2017 年 11 月 5 日　奄美新聞 p1「研究活動など情報発信　島嶼研分室だより No.5 作成」
2018 年 1 月 5 日　沖縄タイムス p27「新種 2 種を発見　琉大・鹿島大チーム」
2018 年 1 月 21 日　奄美新聞 p9「世界遺産匹敵する先史文化　先史時代の奄美・沖縄考察」
2018 年 1 月 21 日　南海日日新聞 p9「奄美・沖縄は奇跡の島　先史時代の特殊性強調」
2018 年 2 月 3 日　奄美新聞 p1「タンカンにクロウサギ被害　映像記録、実態調査を検討」
2018 年 2 月 3 日　南海日日新聞 p1「タンカンにクロウサギ食害　果樹の表皮や葉、食い荒らす」

＜奄美分室来訪者数＞

のべ 120 名（2017 年 9 月 1 日～2018 年 2 月 28 日）

～学生島体験！vol.6～
「奄美での出会い、島の魅力」

田中美保（たなかみほ）　（鹿児島大学理学部地球環境科学科四年）

「もう島なんて来たくない！」11 月に奄美を訪れてすぐ思ったことである。11 月と12月の2 回、卒業研究の調査として奄美大島を訪れたわたしは初っ端から季節外れの台風に遭遇した。これまで台風を楽天的に捉えていたわたしは、朝から集落に響き渡る注意喚起放送に本土とは異なる様相を感じ、慄いた覚えがある。けれども、ガタガタと音をたてる雨戸に一晩中怯えて迎えた朝は、まるで台風なんてなかったかのような晴れやかな空が広がっていた。

塀一面に描かれた集落の案内図

調査では、島を自転車で走りまわって笠利半島と小湊の地形や遺跡について調べた。集落を巡っていると、さまざまな人に出会う。中でも、小湊の自宅の塀一面に集落の地図を描いている方が印象的だった。脚立にのぼってペンキを塗っていたその男性は、小湊外金久（ふわがねく）遺跡が注目されているこの機会に集落を盛り上げたいのだと熱く語ってくださった。また、笠利町ではトビンニャをふるまっていただき、居酒屋で踊りも披露していただくなど、島人のおもてなしにひたすら感激した数日間であった。奄美での出会いは何も人に限ったことではない。畦道の隅をちょろちょろーっと横切るシリケンイモリや木のてっぺんから見下ろしてくるサシバ、川で仁王立ちしていたコウノトリには度肝を抜かれた。そうこうするうちに、いつの間にか当初の気持ちは消え失せ、「また来たいな、夏においでとも言ってもらえたし……」と次の来島に思いを馳せるようにまでなった。

調査後には友達を呼んで一緒に観光をしたが、奄美のよさを紹介でき、楽しんでもらえたことが嬉しかった。もっともっと多くの人に奄美の魅力を知ってもらいたい、そう思いながら今日も研究を続けている。

編集後記

夏期の記録的高水温に続き冬期の寒波、奄美の海の生き物たちには厳しい一年になりました。多くの関心が島外から集まりつつある奄美、島の方にも島外の方にも、喜ばしいことも残念なことも、ありのままの島の自然を知ってもらいたいと願っています。

藤井琢磨

休日、東シナ海のタンカー沈没事故によって漂着した油の回収を手伝ってきました。この浜でまた安全に遊べる日が早く来ることを願いながら。

鈴木真理子

島嶼研分室だより No. 6

平成 30 年 3 月 20 日発行
鹿児島大学
国際島嶼教育研究センター奄美分室
〒894-0032
鹿児島県奄美市名瀬柳町 2-1
TEL: 0997-69-4852　FAX: 0997-69-4853
E-MAIL: amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp
http://cpi.kagoshima-u.ac.jp/AmamiStation/

表紙写真：奄美まつり最終日に盛大に行われている八月踊り。名瀬市街にて。
（撮影：2016 年 8 月 6 日、藤井琢磨）

ISSN: 2189-793X